

清水港湾事務所におけるSDGsの取り組みについて



私ども清水港湾事務所では、以下の取り組みをはじめとする各種施策を通じて、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献するとともに、清水港・田子の浦港・御前崎港・下田港の港湾整備と港湾振興活動を通じ、地域の一層の発展を図って参ります。



多種多様な貨物を世界へ！

清水港湾事務所では、清水港新興津地区において、取扱貨物量の増加や船舶の大型化に対応するため、国際物流ターミナルの整備を行っています。船舶が荷役を行う岸壁は、南海トラフ地震等の大規模地震災害に備え安定的な物流機能を確保するため、耐震強化岸壁として整備しています。また、静岡県が設置した官民連携の協議会にて、新興津コンテナターミナルにリーファープラグを整備するなど、清水港を拠点とした農産物の輸出促進を目的とした取り組みも進められています。2022年9月には、ハイブリット型や電動型の遠隔操作RTG等の運用が計画されており、作業環境の改善、生産性の向上、CO2削減を図る次世代高規格コンテナターミナルを目指した取り組みが行われています。



新興津地区



だれでも親しみやすい『みなと』を目指して！

静岡県内には、『みなとオアシス』7箇所、『釣り文化振興モデル港』3箇所が登録されており、観光振興を通じた地方創生への取り組みが進められています。このうち『みなとオアシス』の構成施設には、賑わいの施設のほか、津波避難タワー等の防災施設も登録されており、災害支援の役割も担っています。また、近年では視覚障害者に配慮し静岡市で生産されたオクシズ材を使用した『立体ピクト』の設置を進めており、地域の人々の憩いの場となるような施設を目指しています。【2021年度以降の目標】

みなとオアシス啓発活動のべ回数: 2021年度1回 → 2030年度49回



【日の出埠頭岸壁の釣り開放】
年6回ほど開放し、100名程度



【男女別立体ピクト】

男性用女性用トイレの入口を示す
※立体ピクトとは
一般的なピクトサインに厚みを加え、
触れることで情報収集を補助するもの



『ブルーカーボン』を活用した環境に優しい『みなと』を目指して！

御前崎港にある久々生^{くびしょう}海岸には、県のレッドデータブックに準絶滅危惧種と定められるコアマモやアマモ等が自生・群生しており、貴重なCO2吸収源となっています。清水港湾事務所では、2021年に御前崎港の開港50周年^{くひしょう}を記念して、アマモ等の『ブルーカーボン』の活用による環境に優しいみなとづくりに向け、久々生海岸の清掃活動を実施しました。当日は2トントラック45台分のゴミを撤去し、清掃後にマダイの稚魚を放流しました。アマモを守り、『ブルーカーボン』を活用することで、環境に優しいみなと作りを目指し、今後も活動を継続していきます。【目標】のべ開催数: 2022年度1回 → 2030年度10回



マダイの稚魚放流



くびしょう
久々生海岸清掃の様子